

岡山県職員を対象とした現場見学会に参加しました！ ～岡山環状南道路～

令和6年1月10日



12月20日（水）に行われた、**岡山県職員**を対象とした、**岡山環状南道路**の工事現場見学会へ参加しました。



見学場所

- 1 令和4年度岡山環状南道路藤田地区橋梁第2下部工事
- 2 令和4年度岡山環状南道路東畦地区第14改良工事



1 令和4年度岡山環状南道路藤田地区橋梁第2下部工事

まずは橋梁下部工事の現場です！





当事務所の職員からの**事業概要**説明の後に、施工業者の方より**工事内容**の説明がありました。



工事現場には、地元の方に工事内容が分かるよう、タッチパネル式のデジタルサイネージが小学生の目線に合わせて設置されています。

地元の方が操作されている事もよくある様です。

岡山県の職員の方も、「これいいですね」と業者の方へ言われていました。

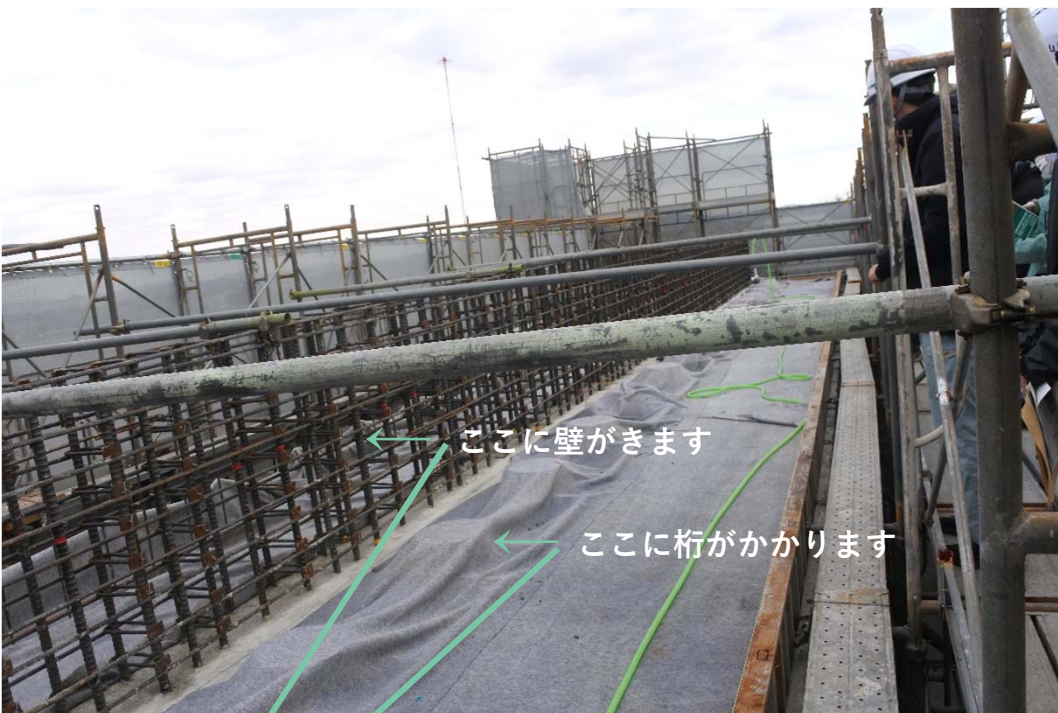


いよいよ橋梁の橋台部分の見学です。

足場を登って確認しましたが、やはり中は狭かったです。



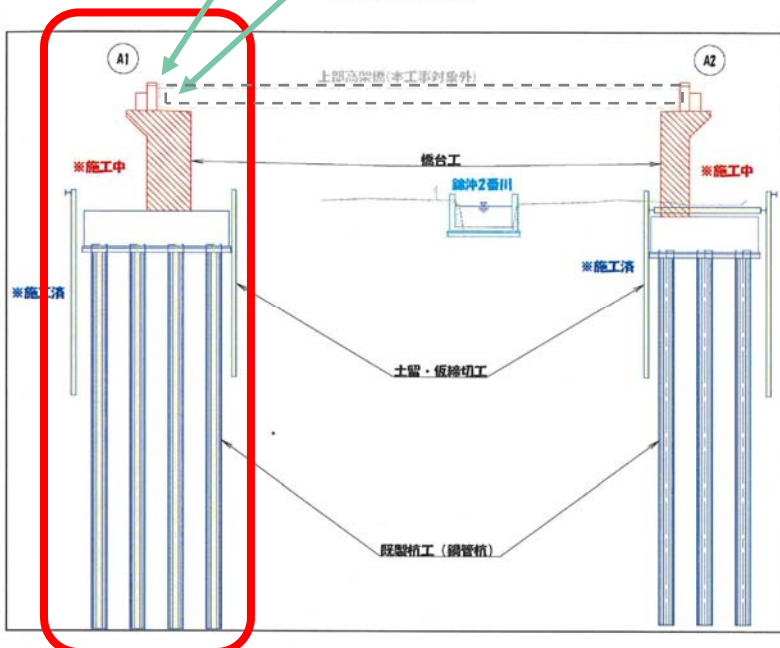
現在A1橋台とA2橋台の橋台工を施工中でした。見学したのはA1 橋台です。



足場を登った先には
沢山の鉄筋がありま
した。

この鉄筋は「**鉄筋干渉モデル**」という**3D**のモデルを作成し
て、鉄筋が干渉する
部位についてチェッ
クしてから施工して
います。

<標準断面図>



施工中の橋は、市道と用水路を横断する
ために施工しています。



岡山県の職員の方からは、杭の深さなど施工方法について質問がありました。



次は補強土壁の工事現場です。

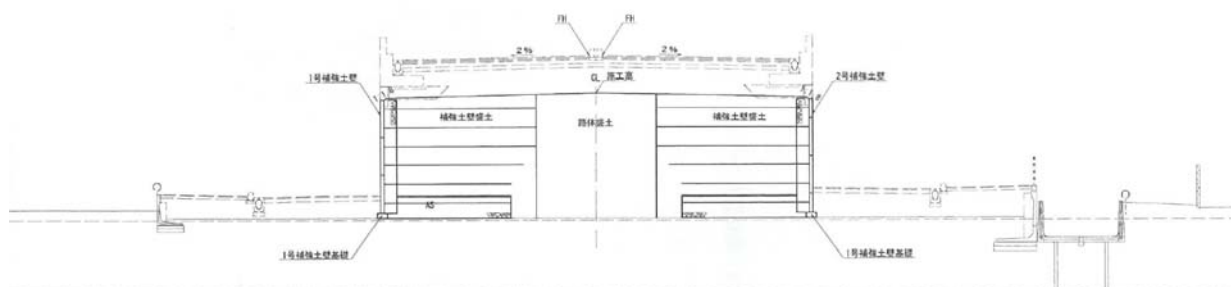
2 令和4年度岡山環状南道路東畦地区第14改良工事



ちょうど盛土の締固め作業を行っていました。



こちらの現場でも、当事務所の職員からの**事業概要**説明の後に、施工業者の方より**工事内容**の説明がありました。

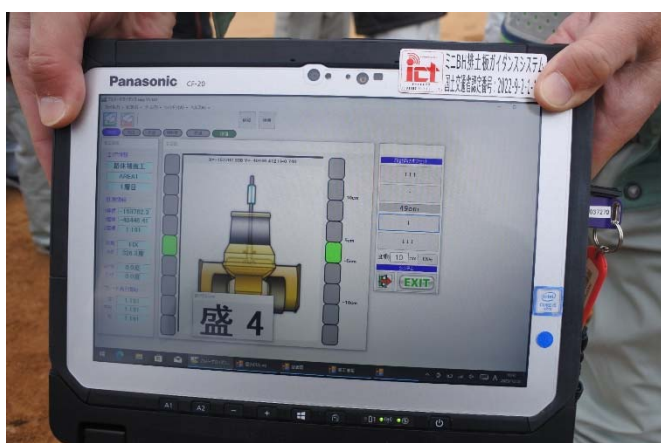


見学した現場は補強土壁の工事のため、盛土する機械の説明を行いました。

盛土するのに25cm毎に締固めを行う必要があるそうです。



ICTを活用した施工として、バックホウに取り付けられた**センサー**で地面の水平などを観測して平らになるように施工しています。



センサーから送られてくる情報を示した画面です。これをもとにバックホウの操作を行うようです。



壁面にはメモリが張られていました。
土を持ってきては締固め、持ってきては締固めの作業を繰り返して盛土を行う緻密な作業の繰り返しです。



岡山県の職員の方からは、「盛土に使用する土に条件はありますか？」といった質問や、「なぜ直壁としたのか？」などたくさんの質問がありました。



使用する土には条件があり、土に含まれる水分の割合などいろいろと指定があります。

歩いた感じでも「**いい土だな**」と感じる土でした！

直壁としたのは、道路の形状のためです。

今回の現場見学会はちょうど寒波がきている時期でとても寒かったです。